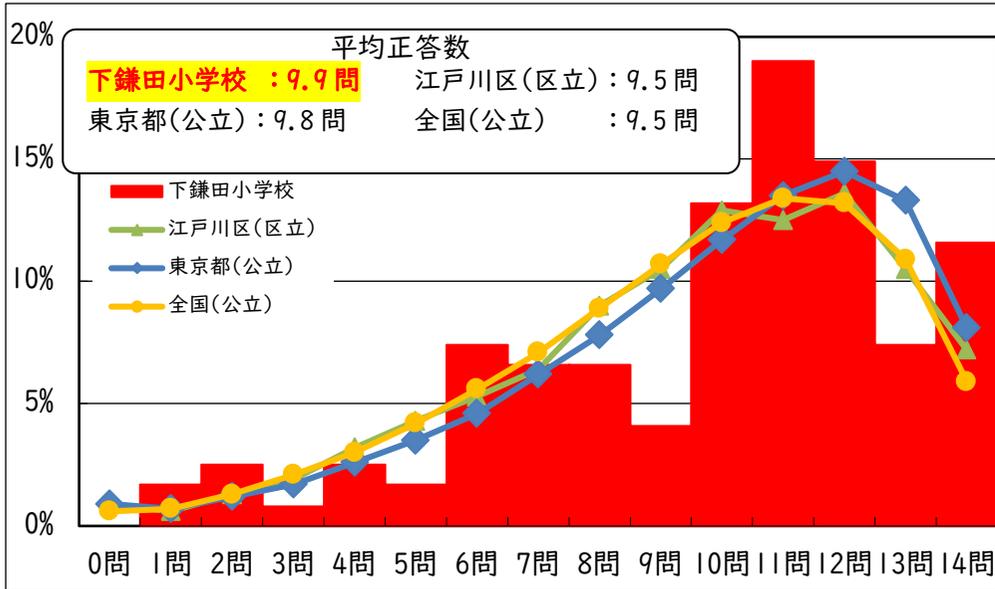


正答数分布



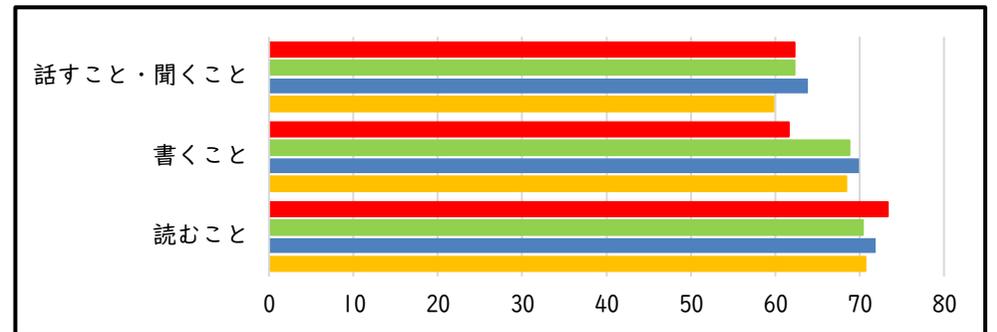
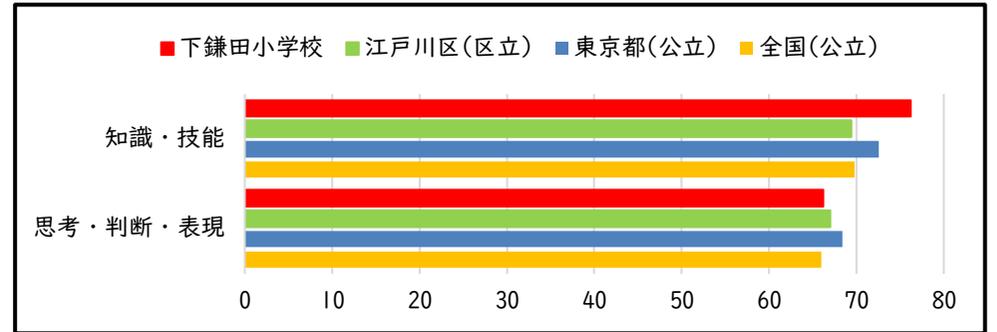
<四分位における割合（都全体の四分位による）>

上位 ← → 下位

国語	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
下鎌田小学校	33.9	32.2	10.7	23.2
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合を示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

下鎌田小学校	70%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	0ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

国語の平均正答率は、全国平均は上回り、都平均と同程度となっている。

設問ごとにしてみると「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」設問に対する正答率が全国・都平均と比べ、本校は約12%以上低くなっている。

「条件を的確に捉え」「得られた情報を要約する」ことの指導の充実を図っていく必要がある。